

“小さな願い”を叶える意思決定支援

当院では、人生の最終段階における医療・ケアの提供において、多職種から構成される医療・ケアチームで患者等に対し適切な説明と話し合いを行い、患者本人の意思決定を尊重した医療・ケアを提供しています。今回は地域包括ケア病棟(5階病棟)でのエピソードを紹介させていただきます。

Episode : 「てん」に会いたい ～238日ぶりに叶った愛犬との再会～

当院の5階病棟で、患者さんとそのご家族、そして“もう一人”の大切な家族との再会を実現した、心あたまるエピソードがありました。Aさんは、愛犬「てん」との散歩中に意識を失い、急性大動脈解離で救急搬送されました。術後、脳梗塞も併発し、気管切開を伴う重篤な状態になり、前医では「回復は望めないかもしれない」と伝えられる中、当院へ転院されてきました。

入院後は、ご主人との日々の関わりとスタッフによるリハビリの積み重ねによって、次第に視線を合わせたり、目の動きで反応したりと、少しずつ変化が現れ始めました。Aさんの病室には、愛犬「てん」の写真が数多く飾られていました。Aさんにとって「てん」はわが子のような存在であり、ご主人にとっても大切な家族の一員でした。ある日、ご主人から「Aとてんを会わせてあげたい」との願いが寄せられました。この家族の“小さな願い”をなんとか叶えたい。そう考えた主治医、看護師、退院支援担当(NDC)、リハビリスタッフなど多職種が連携し、血圧のコントロールや移動手段の確保、面会環境の調整、安全管理や感染対策まで、チームで準備を重ねました。そして迎えた面会当日、238日ぶりに「てん」と再会したAさんの表情は、これまでの入院生活では見られなかったほどの笑顔と涙であふれていました。ご主人や駆けつけた友人の目にも、涙が浮かびます。



愛犬の「てん」

ほんの数十分の面会でしたが、それは確かに“家族が再びそろった”特別な時間でした。その後、Aさんは状態を維持したまま、療養病院へと転院されました。

私たちは、患者さんやご家族の「小さな願い」にこそ寄り添い、多職種で協力して実現を目指す医療を大切にしています。「てんとの再会」は、私たちにとっても、心に寄り添う医療の原点を再確認させてくれる出来事となりました。